

# ポリファーマシー(多剤併用)とは

～岡山県薬剤師会津山支部～

突然ですが「ポリファーマシー」という言葉をご存知でしょうか？

高齢化の進む日本の医療の中で「ポリファーマシー」がクローズアップされることが多くなりました。

なんとなく聞いたことのある方は、「ポリファーマシー」って、たくさんの薬を服用することや(多剤併用)、それによって副作用が出やすくなること(薬物有害事象)のことかな？

でもたくさんの薬っていくつから???と考えられるかと思います。



厚生労働省の見解では「ポリファーマシーは、単に服用する薬剤数が多いことではなく、それに関連して薬物有害事象のリスク増加、服薬過誤、服薬アドヒアランス低下等の問題につながる状態であり、何剤からポリファーマシーとするかについて厳密な定義はなく、患者の病態、生活、環境により適正処方も変化する」と説明されています。

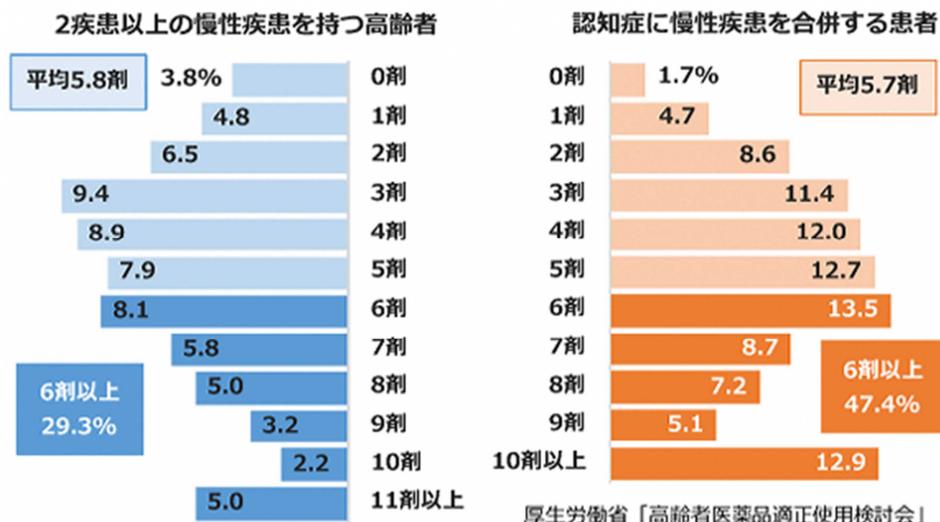
文章が難しすぎて解り難いですよね???

詳しく見ていきましょう。

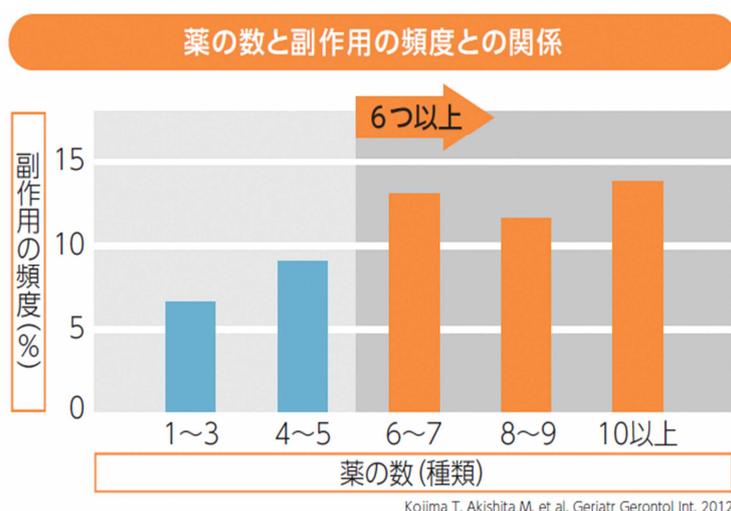
年齢を重ねていくと高血圧や脂質代謝異常症、糖尿病、食欲不振、肩や腰や膝の痛み……どうしても体の不調が増えていきます。

ご高齢になると、体の働きが悪くなり、複数の病気を持つ方が多くなります。病気の数だけ処方される薬も多くなりがちです。下の表を見ていただくと認知症の方や2疾患以上の慢性疾患を持つご高齢の方になると、内服薬数が増えていることがわかります。

高齢者の内服薬数



服用薬剤数が多くなると、副作用や相互作用が多くなると簡単に予想されます。下のグラフを見ていただくと6つ以上の薬剤を服用すると副作用の頻度が多くなることがわかります。



またご高齢になり腎臓や肝臓の機能が悪くなると、薬物の代謝・排泄が低下して、今までは副作用が出なかったがものが急に症状として現れることもあります。

たくさんの薬を服用することによって、薬の相互作用が起こり、副作用が出た時に薬の特定が難しくなります。

薬の数が多くなると、飲み忘れを起こしやすくなり、効果が出てないと感じた医師が薬を追加してさらに薬剤が増えてしまい、薬物の副作用を新たな病気とし、新たな薬で対処し続ける、いわゆる「処方カスケード」が起こる可能性があります。

ポリファーマシー状態になるとは

- 年齢を重ねるにつれ、服用薬剤数が増える傾向にある
  - 複数の医療機関を受診する傾向がある
  - 適正な用量であっても高齢になると、生理機能が低下して副作用が出やすくなる
  - 服用薬剤の種類が多くなることにより有害事象の頻度が多くなる
- ということではないでしょうか。

ただし薬の数が多いということで、自己判断により薬の服用を急に中止することは避けましょう。自己判断で薬の服用を止めることで、症状が急激に悪化することもあります。服薬に不安を感じる事があれば、必ず医師や薬剤師に相談するようにしましょう。

かかりつけの医師は、患者一人一人の症状や体の状態、生活環境、嗜好、考え方、性格、合併症や服薬している薬物を勘案したうえで治療を行っています。

個人に合った薬物や服薬スタイルの決定が必要であるため、服薬する薬物の最終的な判断は、かかりつけの医師によって行われます。医師とよく相談のうえ、治療、服薬することが大切です。



あしだ薬局 栗林 俊文

お問い合わせ先：健康増進課 TEL 0868-32-2069